

3サンハイツせけんぱな紙

第 18 号

令和5年5月1日

編集責任者

田島康弘 (3-101)

作成責任者

渡邊芳憲 (9-503)

編集委員

小松清明 (10-501)



団地内の野草

田島康弘 (3-101)

コマツヨイグサ(小松宵草)
今回も前回(第17号)と同じコマツヨイグサをとり上げました。
前回の写真はロゼッタ状の葉だけでコマツヨイグサと判定しましたが、その後生長して茎が伸び花も咲きましたので、この判定が間違っていなかったことが証明されました。
前回のロゼッタ状の葉(3月5日撮影)の大きさは10センチくらいでしたが、今回、根元から伸びた茎の長さ(4月12日撮影)は20センチと長く、したがって全体の株の大きさは50センチと4倍ほどに大きく生長しています。
茎は直立ではなく匍匐でしたし、黄色の小さな、写真に見られる花が咲きました。コマツヨイグサであることが証明されました。

5月行事予定

天候などの状況によっては、中止、延期などもあり得ます。事前に確認をお願いします。

- 4日(木) ・ユニテッドFCホームゲーム 場所:白波スタジアム(県立鴨池陸上競技場)
対戦相手 ギラヴァンツ北九州 試合開始:14:00
- 8日(月) ・体幹トレーニング 場所:鴨池生協クリニック5階 時間:10:30~11:30
講師:長濱一成先生(トレーニングスタジオカリタ代表) 参加費:500円
申込み先:鴨池生協クリニック 片平さん(☎080-2739-3578) 申込みは1週間前までに
- 9日(火) ・火災予防運動の日(毎月9日)
・第1回(開講式)ダレデエモ・マナヴェール(成人学級)*終了後懇親会(会費1,000円)
講師・テーマ:鴨池小学校桃北紀和校長「鴨池小学校校長に就任して~抱負など~」
時間・場所:19:00~21:00 真砂福祉館2階和室
- 12日(金) ・鴨池小学校 PTA総会・歓迎会
- 13日(土) ・鴨池小学校 土曜授業
・鴨カムサタデー(毎月第2土曜日) 場所:鴨池校区公民館
・スマートフォン相談会 12:00~14:00
・地域食堂「鴨カムお結び」12:30~13:30(配布完了次第終了)
・第1回カモスク講座 13:30~14:30 材料費:500円
染め物体験~白い布に模様を作ろう~ 定員:10組 申込期限:5/11(木)
- 14日(日) ・ユニテッドFCホームゲーム 場所:白波スタジアム(県立鴨池陸上競技場)
対戦相手 FC琉球 試合開始:13:30
- 15日(月) ・合同リサイクル活動 鴨池小学校・鴨池校区コミュニティ協議会共催
場所・時間:鴨池小学校正門・東門 7:30~8:00
収集対象:廃食用油・キッチン金具・古本・制服・ベルマーク・インクカートリッジ(純正品限定)
- 16日(火) ・鴨池中学校 PTA総会
- 20日(土) ・鴨池小学校 PTAリサイクル
- 24日(水) ・鴨池中学校 1年生:宿泊学習(~25日)
3年生:職場体験学習(~26日)
- 25日(木) ・鴨池中学校 2年生:校外学習
・第1回(開講式)プティ・エコール 時間:10:00~12:00 材料費:1,000円
講師:こきりんさん 場所:鴨池校区公民館2階 申込期限:5/17(水)
テーマ:レザークラフト カードケース作り「自分だけのお気に入り一緒に作ってみませんか」

各行事の詳細は

LLかもいけ 第110号

(2023年5月号)をご覧ください

東日本大震災についてⅡ

渡邊芳憲(9・5・03)

■はじめに

本紙16号(3月1日付け)で、東日本大震災について震災の規模と被害状況を中心に記事をお伝えしました。今回は、鹿児島市の支援の内容を中心に記していきたいと思っています。

■鹿児島市の支援について

①直後

鹿児島市では、震災発生直後から、被災された方々の、健康状態を維持するための診療活動を行うために、震災当日の午後11時、市立病院から、DMAT(災害派遣医療チーム、医師1名、看護師3名、業務調査員1名でチームを構成)1チームが出発しました。宮城県の仙台市、石巻市、利府(りふ)町で活動されたそうです。

あとからは、JMAT(日本医師会災害医療チーム)に、医師1名、看護師2名、事務職員1名が参加し、茨城県に派遣されました。

また、応急給水や緊急消防に対応するために、消防局からも緊急消防援助隊18名が、石巻市、気仙沼市に、5台の車両とともに派遣されました。水道局からも、応急給水隊として技師5名、給水車、応急作業車を派遣し、併せて、千リットル仮設給水槽2個、6リットル入り給水容器千袋を送っています。

一方、被災地派遣以外でも、様々な活動が行われました。

◎ 市民局は、缶詰1万個、毛布1千枚の救援物資を福島県相馬市に送ったほか、義援金箱を水族館、環境未来館ほか市内15箇所に設置しました。

◎ 健康福祉局では、市民から提供される救援物資の受付を始めました。

◎ 建設局では、被災された方々が移住して来られる場合に備えて、空いている市営住宅50戸を確保したほか、破壊された移動手段の代替として、保管していた放置自転車を提供しました。

◎ 半年後、1年後

一定の時間が経過すると、被災された方々への直接の対応だけでなく、被災地域の復興に向けた活動が必要になってきます。この活動は、ただ、物資を届けるというようなものではなく、計画を立て、それを着実に実行していくという、ある意味、地味で腰を据えて行うものとなると思います。そのために、鹿児島市からも、被災地からの要請に基づき、多くの市職員が派遣されました。建築関係職員が、仮設住宅の建築に携わるために、派遣されました。

土木職員も、また、区画整理やインフラ整備に従事するために派遣されました。

さらに、土木建築関係の技術職員だけでなく、事務職員も派遣されています。例えば、職を失い、家を失い、生活基盤が失われた多くの方々の生活を守るため、生活保護事業が必要ですが、対象となる人々が、同時に多数発生し、認定事務がマヒしてしまいう事態も起こりました。これら进行处理するため、現地に派遣されています。

③1年後、現在

その後も、継続的に現地の要請に基づき、多数の職員が派遣されました。

気仙沼市、石巻市に、事務職員を含め、1市につき1名ないし2名の職員が、1年から最長3年のスパンで派遣されました。そして、今年3月まで気仙沼市に派遣されていた最後の職員が、帰任し、4月5日に、他の災害で派遣されていた職員の方とともに市長に帰任報告をしています。

■少しでも被害を少なくするために

市が発行している「鹿児島市防災ガイドマップ」「鹿児島市津波ハザードマップ」をよく読み、理解した上で、平時にこそ、非常持ち出し袋や備蓄品を準備し、「その時どうするのか」をシミュレーションしておくことが大事だと思います。

最後に鹿児島市津波ハザードマップから、鹿児島大学准教授井村隆介先生の言葉を紹介します。「災害は忘れた頃にやってくる」と言われますが、裏を返せば、「忘れなければ防げる」ということでもあるのです。

鴨池小・中校長先生着任

渡邊芳憲(9・5・03)

前号で、ご紹介しましたが、鴨池小学校の福岡明人校長先生、鴨池中学校の有村忠裕校長先生が、3月31日で退任されました。その後任として、鴨池小には出水市立西出水小学校から桃北紀和先生が、鴨池中には鹿児島市教育委員会学務課から元野弘先生が校長先生として着任されました。

■東日本大震災もう一つの物語

2011年3月11日、この日もう一つの物語がありました。翌日3月12日に全線開通を控えていた九州新幹線です。

九州新幹線では、博多―鹿児島中央間の路線が全部つながり、3月12日に開業することとなりました。JR九州では、これに向けて、CMを作ったり、沿線市町村との協議を重ね、着々と開業祝賀会や関連イベントの準備を進めていました。

11日は、JR九州社長の唐池恒二社長も、翌日朝6時からの出発式などでのスピーチの練習をしていたところに、司令室からの第1報が飛び込んできました。15時少し前だったそうです。慌ててテレビを付けると、地震で倒壊している建物が映り、その後も更に悲惨な状況が次々と映し出されていきました。

社長は、全部長と主要課長を会議室に集め、明日の新幹線の出発式を含めた全行事を中止する決意を告げたそうです。

当然、長い期間準備を続けてきたこともあり、反対する意見がありました。社長は、これは、東北だけのことではない。困難なんだと言い切り、各自自治体、関係団体に中止の連絡をするよう指示したとのこと。『「する決断」ではなく、「しない」という決断』は辛いものであったと、自著『逃げない』(PHP研究所刊)で、述べておられます。当日は、一切の祝賀行事は行われず、鹿児島中央駅6時58分発の一番列車(新大阪直行みずほ600号)も静かに出発していきました。